

## 中国姓名における漢字について

植 田 均  
Ueda Hitoshi

現在、日本社会において中国人姓名を、例えば毛沢東なら「モウタクトウ」の如く、日本語の音読で呼称する。中国語音「Máo Zédōng」とおりの音「マオツォトン」とは表記しない（逆に、筆者の姓名の発音は、中国ではもっぱら中国語音 [Zhítíán Jūn] と呼称され、「UEDA HITOSHI」とはならない）。日本社会では日本語音読、中国社会では中国語音読となる。したがって、例えば、姓を日本語音読、名を中国語音（あるいは、この逆）で表記するのは馴染まない。毛沢東なら「モウ ツォトン」、「マオ タクトウ」の如く。しかしながら、本学の現況では、「日本語に音読する」、「中国語の簡体字を使用しない」などの統一がとられていない。小稿では、中国語未修得の人においても表記や読音の統一・整理ができるよう試みた。

中国人留学生の姓名表記のしかた、日本語音読のしかたについては、(学務システムとして) 更に研究しなければならない。原則は、日本語漢字をなるべく使用することである。JIS 第2水準まで用いれば、かなりのところまでカバーできる。

ところが、中国には存在しても、日本漢字に無い文字がある。それは、「環境依存文字」等として扱えばPCに出現する。そのシステムを採用しない場合は、漢字が出てこない。したがって、ベトナム人、モンゴル人と同様、カタカナ語で表すよりほかない。

学務システムが採用すべき原則を以下「漢字表記」、「日本語音読」に分けて各々下記に示す。

[漢字表記] について

- 1) 日本語漢字 JIS 第1水準を使用する。[例] 簡体字“単”の場合、JIS 第1水準「単」を用いる。JIS 第2水準「單」は使用しない。
- 2) 日本漢字に無い文字は中国語繁体字を使用する。[例] 簡体字“庞”は繁体字“龐、龐”の方を採用する。同じ意味の漢字だからである。
- 3) 中国語の簡体字は使用しない。[例] 簡体字“艺”を不採用、繁体字“藝”の方を用いる。
- 4) 日本語漢字 JIS 第1水準、JIS 第2水準、簡体字、繁体字のどれにも有する場合、簡体字と同一の日本語漢字を採用する。[例] 簡体字“杰”は日本語漢字 JIS 第2水準「杰」、繁体字“傑”は日本語漢字 JIS 第1水準「傑」と同一である。

[日本語音読] について

- 1) 姓名用発音を採用する。[例] “単”は「ゼン」。
- 2) 日本語の音読を採用し、訓読は採用しない。[例] “谷”は「コク」(「タニ」は不採用)。
- 3) 簡体字と JIS 第1水準漢字が同一文字になる場合、意味により採用する。「別字」に注意すべきである。[例] “芸”は「ウン」。「ゲイ」(藝)は別字。

- 4) 日本語音読を採用し、中国語音を採用しない。[例] “馬”は「バ」(中国語音「マ」は日本語音読にないこともない。しかし、一般的でない)。
- 5) 一般に漢音、呉音を採用し、慣用音を採用しない。[例] “炬”は「キョ」(「コ」は慣用音。“炬燵”<コタツ>にのみ使用する)。

今、中国語と日本語の漢字を対照、整理した。即ち、中国語の簡体字を使用しなければ(現在の「学務システム」であってもPCにて)ほとんどが表出できる。例えば、“栾”は簡体字ではなく繁体字“欒”を用いると日本語で出現する。例字は、多くがこれまで本学に在籍した学生の中で、特に注意を要する姓または名(夏季短期研修生も含む)。原則、日本語音読順に配列。

中国語			日本語			備考
簡体字	繁体字	拼音字母	当用漢字 JIS 第1水準	JIS 第2水準	音読	
怡	怡	yí	—	怡	イ	人名によく使用。音符“台”(イ)に従う。
贇	贇	yūn	—	贇	イン	出現率は低く、音読が難しい。積義「美しく素晴らしい」。
芸	1: 芸 (芸香) 2: 蓼 (アブラナ)	yún	芸	—	ウン	簡体字と日本漢字JIS第1水準が偶然同一漢字になるので、間違い易い。しかも下の名前に多く使用。
艺	藝	yì	芸	藝	ゲイ	簡体字、繁体字、日本漢字JIS第1水準の三者が異なる。
炬	炬	jù	—	炬	キョ、 コ	音符“巨”(キョ)に従う。「コ」は慣用音。
沂	沂	yí	—	沂	キ、 ギ	山東省にある地名。音符“斤”(キン→ギ)に従う。「キ」は慣用音、「ギ」は漢音。JIS第2水準に存在。

中国語			日本語			備考
簡体字	繁体字	拼音字母	当用漢字 JIS 第1水準	JIS 第2水準	音読	
忻	忻	xīn	—	忻	キン	“欣”（キン）と同じ読音、同一積義。
阮	阮	ruǎn	—	阮	ゲン	日本語では出現頻度が低いが、JIS 第2水準に存在。姓用。
乾	乾	qián	乾	—	ケン	“幹”（カン）[gàn]および“乾燥”の“乾”（カン）[gān]は別字。簡体字“干”[gān]「カン」ではない。
甄	甄	zhēn	—	甄	ケン、 シン	音符“堉”[yīn]（「エン→ケン」）に従う。多く姓、人名に使用。
谷	谷（穀）	gǔ	谷	—	コク、 ヨク	[yù]「ヨク」は青海地方にあった国名。 “吐谷渾”（トヨクコン）。日本人姓で「タニ」（訓読）が多く存在するから、紛らわしい。
齐	齊	qí	斉	齊	セイ (サイ)	中国語の[qí]に対しては日本語音読「セイ」が一般的。「ものいみ」（飲食・行為を慎み、心身を淨めること）の意味では「斉」を「サイ」と音読する。ただし、この時の「斉」の語音は[zhāi]（「齋」）となる。姓用。

中国語			日本語			備考
簡体字	繁体字	拼音字母	当用漢字 JIS 第1水準	JIS 第2水準	音読	
斋	齋	zhāi	齋	齋	サイ	日本語の姓で多い「サイトウ」は、「斎藤」、「齋藤」の両方とも使用。したがって、「斎」を「サイ」と読む人も多い。
胥	胥	xū	—	胥	シヨ、ソ	「シヨ」は漢音、「ソ」は呉音。日本語では出現頻度が少ない。
岑	岑	cén	—	岑	シン、ギン	音符“今”(キン→シン)に従う。積義は「峯」。姓に使用。
菁	菁	jīng	—	菁	セイ、ショウ	「セイ」は漢音、「ショウ」は呉音。
舒	舒	shū	—	舒	ジヨ、シヨ	音符“舍”(シャ→シヨ)に従う。「ジヨ」は慣用音。「シヨ」は漢音。一般に慣用音を採用する。なお、「シャ」は一般に用いない。
茜	茜	xī	茜	—	セン	『新字源』には[qiàn] (日本語音読は「セン」)のみ掲載。人名にも使用。『中国語大辞典』(角川書店)には[qiàn]の他に[xī]を外国人名の翻訳に用いるという(しかし、中国人の名にも用いる)

中国語			日本語			備考
簡体字	繁体字	拼音字母	当用漢字 JIS 第1水準	JIS 第2 水準	音読	
栾	欒	luán	—	欒	ラン	簡体字と繁体字とでは異なる。姓用。
杰	傑	jié	傑	杰	ケツ	簡体字“杰”はJIS第2水準に存在し、繁体字“傑”はJIS第1水準に存在。
筱	篠	xiǎo	篠	筱	シヨウ	簡体字“筱”はJIS第2水準に存在し、人名によく使用。繁体字“篠”はJIS第1水準に存在。
梦	夢	mèng	夢	梦	ム、 ボウ	簡体字“梦”はJIS第2水準に存在し、繁体字“夢”はJIS第1水準に存在。 「ム」は呉音、「ボウ」は漢音。「ム」が一般的。
冰	冰	bīng	冰	冰	ヒヨウ	音符“ㄩ”（ヒヨウ）に従う。本字は「冰」、教育漢字「氷」は俗字。

\*以下に示す文字は、姓用の中国語音が異読となるもの。

中国語			日本語			備考
簡体字	繁体字	拼音字母	当用漢字 JIS 第1水準	JIS 第2 水準	音読	
尉	尉	wèi	尉	—	イ	姓の場合は[wèi] (イ)。音符“尼”(ヂ→キ)に従う。
尉迟	尉遲	yùchí			ウツ・チ	復姓の場合、“尉”を[yù] (ウツ)と読音。[wèi] (イ)ではない。
贾	賈	jiǎ	賈	—	カ	姓の場合は[gǔ] (コ)ではない。音符“冫”(コ/カ)に従う。
过	過	guō	過	—	カ	姓の場合は[guò]ではない。音符“冫”(カ)に従う。
华	華	huà	華	—	カ	姓の場合は[huá]ではない。
解	解、 解	xiè	解	解	カイ、 ゲ	音符“角”(カク→カイ)に従う。姓の場合は[jiě]ではない。「解」は俗字。「カイ」は漢音、「ゲ」は呉音。
葛	葛	gě	葛	—	カツ、 カチ	姓との場合は[gé]ではなく[gě]。音符“曷”に従う。「カツ」は漢音、「カチ」は呉音。
纪	紀	jǐ	紀	—	キ	姓の場合は[jì]ではない。音符“己”(キ)に従う。なお、『新华字典』に姓用でも「俗读[jì]」とする。

中国語			日本語			備考
簡体字	繁体字	拼音字母	当用漢字 JIS 第1水準	JIS 第2 水準	音読	
仇	仇	qiú	仇	—	キュウ、 グ	姓の場合は[chóu]ではない。音符“九”に従う。「キュウ」は漢音、「グ」は呉音。なお、『新字源』に[qiú]は未収。
查	查	zhā	查	—	サ	姓の場合は[chá]ではない。音符“且”(シヨ/シヤ→サ)に従う。
哈	哈	hǎ	—	哈	ゴウ	姓の場合は[hā] [hà]ではなく[hǎ]。音符“合”(ゴウ)に従う。なお、古代は[shà] (ソウ)の音も存在した。
肖	肖	xiāo	肖	—	ショウ	姓の場合は[xiào]ではない。音符“小”(ショウ)に従う。なお、『新华字典』に「肖」は“蕭”の俗字」とする。
沈	瀋	shěn	—	瀋	シン	姓、地名の場合は[chén]ではない。
沉	沈	chén	沈	—	シン、 チン、 ジン	簡体字、繁体字、日本語漢字 JIS 第1、2水準が各々交錯。
单	單	shàn、 chán	单	單	ゼン	姓の場合は[dān] (タン)ではない。[shàn]は姓、地名用。[chán]は「呼び名」に使用。

中国語			日本語			備考
簡体字	繁体字	拼音字母	当用漢字 JIS 第1水準	JIS 第2 水準	音読	
曾	曾	zēng	曾	曾	ソウ、 ソ	姓のときは[zēng]で、[céng]ではない。
那	那	nā	那	—	ナ、 ダ	姓の場合は[nà]ではない。「ダ」は漢音、「ナ」は呉音。音符“𠂔”（ゼン→ダ）に従う。なお、『新字源』に[nā]は未収。
祢	禰	mí	禰	祢	ネ、 デイ、 ナイ	姓用は旧読音[nǐ]ではない。音符“爾”に従う。「ネ」は慣用音、「デイ」は漢音、「ナイ」は呉音。なお、簡体字“祢”と類似形の「祢」は俗字。
宁	寧、 甯	nìng	寧	—	ネイ、 ニョウ	姓の場合は[níng]ではなく[nìng]。「ネイ」は慣用音、「ニョウ」は呉音。“甯”は異体字。
繆	繆	miào	—	繆	ビュウ	音符“𠂔”（リュウ/リョウ→キュウ/ビュウ）に従う。但し、姓用は[jiū]（[漢音]キュウ）、[miù]（[漢音]ビュウ）、[liào]（リョウ）、[mù]（[漢音]ボク）とはしない。『新字源』に[miào]音は未収。

中国語			日本語			備考
簡体字	繁体字	拼音字母	当用漢字 JIS 第1水準	JIS 第2 水準	音読	
朴	朴	piáo	朴	—	ボク、 ハク、 ホウ、 ホク	音符“卜”（ホク）に従えば[pō]、[pó]、[pǔ]であるが、姓の場合は[piáo]。この日本語音読は「ヒョウ」。“朴”は、朝鮮族の姓で、漢族の姓には一般に無い。「ホウ」、「ホク」は漢音。「ボク」は慣用音。

\*以下に示す文字は、日本漢字（JIS 第1水準、JIS 第2水準）に無い。

中国語			日本語			備考
簡体字	繁体字	拼音字母	当用漢字 JIS 第1水準	JIS 第2 水準	音読	
炜	煒	wěi	—	—	イ	音符“韋”（キ→キ）に従う。一般に「イ」と読音。積義は「明らか」。古代は[huī]（キ）の音も存在。
韦华	韋	wěi	—	—	イ	音符“韋”（キ）に従う。「カ」とは読まない。積義は「盛ん、明らか」。
玮	瑋	wěi	—	—	イ	音符“韋”（イ）に従う。「玉」の名を意味する。
筠	筠	jūn	—	—	(キン)、 イン	音符“均”（キン→イン）[yún]に従う。なお、『新字源』に[jūn]は未収。

中国語			日本語			備考
簡体字	繁体字	拼音字母	当用漢字 JIS 第1水準	JIS 第2 水準	音読	
龚	龔	gōng	—	—	キョウ	音符“共”(キョウ)に従う。姓に用いる。
钰	鈺	yù	—	—	ギョク	音符“玉”(ギョク)に従う。積義は「珍宝」。
焯	焯	zhuō	—	—	シヤク、 トク	音符“卓”(タク)に従う。“焯”は『新字源』に親字を未収。但し、同書に“倬”の同義語“焯”を読音「シヤク」(p.139)、「シヤク、トク」(p.70)、積義「あきらか」とする。
璇	璇	xuán	—	—	セン	音符“旋”(セン)に従う。積義は「美玉」。
褚	褚	chǔ	—	—	チョ	音符“者”(シヤ→チヨ)に従う。姓の場合は[zhǔ]ではない。なお、『新字源』に読音[zhě](シヤ)も有す。
婷	婷	tíng	—	—	テイ	音符“亭”(テイ)に従う。女性の名に、また、重畳語としても多用する。積義「美しくてすばらしい」。
喆	喆	zhé	—	—	テツ	“哲”(テツ)と語音、積義が同じ。人名に多い。

中国語			日本語			備考
簡体字	繁体字	拼音字母	当用漢字 JIS 第1水準	JIS 第2 水準	音読	
佟	佟	tóng	—	—	トウ	音符“冬”(トウ)に従う。姓に用いる。
颯	颯	pèi	—	—	ハイ	『康熙字典』の“颯”に「蒲蓋切、音旆。女名。又蒲昧切、音佩、義同」とする。音は[pèi] (ハイ)、女性名に用いる。『現代汉语词典』、『新字源』に未収。
宓	宓	mì	—	—	ヒツ、 ビツ	音符“宓”(ヒツ、ビツ)に従う。この他に読音「フク」がある。これは中国伝説上帝王の名。
雯	雯	wén	—	—	ブン	音符“文”(ブン)に従う。釈義は「美しい雲」。
逢	逢	féng	—	—	ハウ	音符“丰”(ハウ)に従う。“逢”の原字。
庞	龐、 龐	páng	—	—	ハウ (ハウ)	音符“龍”(「ロウ」→「ハウ」)に従う。「ボウ」の読音は無い。『新字源』は「ハウ」、「ロウ」のみ。姓は「ハウ(ハウ)」。
乜	乜	niè	—	—	メ、 バ	姓の場合は[miè]ではない。中国でもこの漢字を用いた姓の出現頻度は低い。

中国語			日本語			備考
簡体字	繁体字	拼音字母	当用漢字 JIS 第1水準	JIS 第2 水準	音読	
雒	雒	luò	—	—	ラク	音符“各”（「カク」→「ラク」）に従う。『現代汉语词典』によれば“洛”の古字。姓に用いる。
妤	妤	yú	—	—	ヨ	“婕妤”（漢代宮中女官名）として使用。

### 参考文献

『康熙字典』, 中国書籍出版社, 1997年 (1716年初版)。

中国社会科学院语言研究所词典编辑室, 『現代汉语词典』 (第5版), 2008年 (1960年试印本)。

徐世荣, 『普通话正音手册』 (第2版), 北京・语文出版社, 1997年。

『新华字典』, 商务印书馆, 1992年 (1957年第1版)。

小川環樹、西田太郎、赤塚忠, 『新字源』, 東京・角川書店, 1985年 (1968年初版)。

上柿力, 『パソコン/ワープロ漢字辞典』, 東京・ナツメ社, 1987年。

広東、広西、湖南、河南辞源修訂組、商務印書館編集部, 『辞源』 (修訂本), 商務印書館, 1998年 (1988年第1版)

大野史朗、藤田豊, 『難読姓氏辞典』, 東京・東京堂出版, 1983年。

笹原宏之, 『訓読みのはなし』, 東京・光文社, 2008年。

ク, 『日本の漢字』, 東京・岩波書店, 2006年。

難波常雄、早川純三郎、鈴木行三, 『中国人名辞典』 (上古～近世), 東京・日本図書センター, 1968年。

英文タイトル Chinese Characters of Surname and Personal Name. Ueda, Hitoshi